2回戦
10年秋季リーグ
第8週・10月26日
1勝1敗

2部優勝決定！！

駒大4－0立大

駒　大	010	100	200	4
立正大	000	000	000	0

【駒　大】	打安点
⑥　岡	420
④赤　木	210
⑤白崎浩	411
⑦山　下	500
DH 森　田	300
HD 長　内	100
③笠　間	300
⑧小　林	100
②上村新	322
⑨嘉数駿	301
計	2964

▽二塁打＝岡、上村新
▽本塁打＝上村新

	回	打安責
○井　口	9	3120

【上】最後の打者を打ち取り笑顔を見せる（左から）岡、井口、白崎浩

【右】優勝の瞬間、盛り上がったスタンド　【右下】好守備で井口を助けた主将・笠間

1部との入替戦へ

お互い2部優勝を懸けた大事な一戦。
打線が小刻みに得点を重ねると、マウンドを託された先発・井口拓皓（経2）が相手打線を2安打に抑える好投で完封勝利を果たす。3回戦で敗れても立正大に勝率で上回るため、2部優勝を成し遂げた。

2部優勝まであと1勝と迫っていながら、前日は完敗した駒大。立正大に逆王手を懸けられたが、1部復帰への執念が簡単に消えることはなかった。

優勝決定戦で先発を託された井口は「力みがあった」と、初回に四球と暴投が重なり1死三塁の危機を背負う。この場面を主将・笠間将裕（商4）のファインプレーで切り抜けると、直後に好機が訪れた。

2回、1死から小林勇登（経2）が四球で出塁しここで打席に立つのは、専大2回戦以来のスタメンマスクをかぶる上村新（営4）。追い込まれてから放った打球は左中間を破り、小林が俊足を飛ばしてホームイン。上村新は、「結果的に「結果的に点が入って良かった」と振り返り、待望の先制点を奪う。

次は打倒・国士大

援護をもらった井口は2回以降安打を許さない。「いつもより調子が良くて思い通りに投げられた」と、三塁を踏ませない投球を見せる。

終盤7回は上村新の左越本塁打と白崎浩之（法2）の中犠飛で、この日の井口には十分すぎるダメ押しの追加点を挙げた。

【上】今季初本塁打を放ち、嘉数駿とハイタッチを交わす上村新（右）

迎えた最終回2死一塁。最後の打者を三ゴロに打ち取ると、右腕はマウンドで吠えた。大事な一戦での初完封勝利に「ホッとした」。集まったナインはもちろん、ベンチ・スタンドの選手が一体となり優勝が決まった瞬間、歓喜に包まれた。

この勝利はただの勝利ではない。前日の試合に敗れ寮に戻った選手たちは、グラウンドがどろどろの中、真っ黒になるまでノックを受け続けた。激しく粘り強く泥臭く―。駒大野球を思い出し、初心に帰ってつかんだ勝利だった。

しかし、2部優勝は1部復帰への通過点でしかない。主将の笠間は「後輩たちに神宮第1でやる権利を残すことが最後の仕事」と、既に先を見据えた。挑むは国士大との入替戦。目標達成が近付いてきた。

写真＝橋本圭史
山田遼太郎
水出綾香
文＝桝島知佳

【上】試合終了後グランドに集まる選手ら